

科目名	基礎演習 I (2限目)		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50001		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 「論理的な思考法 (<i>logical thinking</i>)」を身に付けて、大学4年間に於ける学修の基礎力を養う。これは同時に将来の入社試験、あるいは公務員試験(判断推理分野)対策としても役立つはずである。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	言葉と言葉の「接続関係」、「推測」、「演繹」について正しく理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		授業の進め方							
第2回	言葉と言葉の「接続関係」		「接続関係」とはなにか						ディスカッション	
第3回	「解説」と「根拠」		「解説」、「根拠」の接続表現を使いこなす						ディスカッション	
第4回	「付加」と「転換」		「付加」、「転換」の接続表現を使いこなす						ディスカッション	
第5回	「接続関係」のまとめ		これまでのポイントを練習問題を解いて確認する						ディスカッション	
第6回	「接続構造」		「接続構造」を図で表現する						ディスカッション	
第7回	指示関係		指示されていることを明示する						ディスカッション	
第8回	まとまった文章の分析		文章全体を通読して、その構造を図で表現する						ディスカッション	
第9回	議論の組み立て		議論を始める際に注意すべきこと						ディスカッション	
第10回	主題、問題、主張		左記3項の意味を理解する						ディスカッション	
第11回	論証の構造と評価		論証を評価する練習を行う						ディスカッション	
第12回	論証構造の分析と評価		論証構造を分析する練習を行う						ディスカッション	
第13回	演繹と推測		演繹と推測との違いを理解する						ディスカッション	
第14回	仮説形成		仮説形成で注意すべき点						ディスカッション	
第15回	まとめ		全体のまとめ							
評価方法及び評価基準	各種課題(50%)と期末試験(50%)。期末試験(接続表現、論証図、演繹の推測の区別等について)の評価は解答の正否によって行う。									
課題等	授業は各自の「作業」が中心となる。提出された課題は翌週に返却。									
事前事後学修	毎週課題が出される。要する時間は3時間程度。									
教材教科書参考書	『新版 論理トレーニング』(野矢茂樹、産業図書、本体2200円、ISBN978-4-7828-0211-3)									
留意点	一回でも休むと理解が難しくなる。									

科目名	基礎演習 I (3限目)		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50002		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】          高等学校までの学習内容（日本語、基礎演算、時事・一般常識）を総復習し、大学4年間の学びの基礎、土台作りとする。また、社会人として必須の表現力も養成する。          【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】          ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	上記3分野について、「技能・知識」を一層獲得し、「思考力・表現力」をより高める。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		授業の進め方							
第2回	日本語能力レッスン		自己紹介する、論説文を読む						課題解決型学修	
第3回	日本語能力レッスン②		論説文を読む②						課題解決型学修	
第4回	日本語能力レッスン③		本の紹介文を書く						課題解決型学修	
第5回	日本語能力レッスン④		短いレポートを作成する						課題解決型学修	
第6回	日本語能力レッスン⑤		短いレポートを作成する②						課題解決型学修	
第7回	基礎演算レッスン		簡単な計算問題を解く						課題解決型学修	
第8回	基礎演算レッスン②		簡単な計算問題を解く②						課題解決型学修	
第9回	基礎演算レッスン③		簡単な計算問題を解く③						課題解決型学修	
第10回	時事・一般常識レッスン		時事問題の傾向と再作						課題解決型学修	
第11回	時事・一般常識レッスン②		就職試験にチャレンジ						課題解決型学修	
第12回	時事・一般常識レッスン③		就職試験にチャレンジ②						課題解決型学修	
第13回	時事・一般常識レッスン④		就職試験にチャレンジ③						課題解決型学修	
第14回	時事・一般常識レッスン⑤		就職試験にチャレンジ④						課題解決型学修	
第15回	まとめ		全体のまとめ							
評価方法及び評価基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、試験解答の正否によって行う。									
課題等	自宅等での「ハードな作業」、active learningが中心となる授業。毎週一定量の課題が出される。									
事前事後学修	3時間程度の準備が必要。									
教材教科書参考書	『一冊で突破！SPI3&テストセンター2024年入社用』（成美堂出版編集部、1320円、ISBN978-4-415-23532-5）									
留意点										

科目名	基礎演習 I		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50003		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	坂井 任			授業 形態	演習	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】          大学では、自ら課題を設定し、自分で調べ、考え、他人に伝える文章にまとめる能力が要求される。この授業では、文書作成能力を鍛え、大学で学んでいく上での基礎を作る。          【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】          ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>レポートや論文などの論理的な文章がきちんと書けるようになる。          大学生にふさわしい日本語力・文章力を身につける。          情報検索や図書館の利用法を学ぶ。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	自己紹介の仕方		自己紹介の仕方・自己紹介ワークシート記入・自己紹介							
第2回	図書館利用法		図書館資料の利用法						図書館に集合 グループワーク	
第3回	論理的文章作成の基礎(1)		文章の分類 事実と意見を区別する							
第4回	論理的文章作成の基礎(2)		適切な語の選び方							
第5回	論理的文章作成の基礎(3)		文体の統一							
第6回	論理的文章作成の基礎(4)		句点・読点・記号の使い方							
第7回	論理的文章作成の基礎(5)		読み手が理解しやすい文(1)							
第8回	論理的文章作成の基礎(6)		読み手が理解しやすい文(2) 適切な指標							
第9回	論理的文章作成の基礎(7)		接続詞と指示語							
第10回	文献の引用		引用の作法 文献リストの記載法							
第11回	文章作成の実践(1)		レポート・論文の型とテーマ							
第12回	文章作成の実践(2)		小論文の型							
第13回	文章作成の実践(3)		小論文の型							
第14回	文章作成の実践(4)		図表・グラフの使い方							
第15回	資料の読み方		説明的文章の読み方							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>平常点(授業・課題への取り組み)2/3、提出物1/3          毎回課題に取り組み、授業への参加度と合わせて平常点とする。課題は全て提出し、各回の目標を達成しているかどうかを評価する。          試験はなし。</p>									
課題 等	<p>毎回授業内で課題が出る。授業の終わりに提出して、次回に返却する。</p>									
事前 事後 学修	<p>返却された課題で、できていなかったところについては、プリントで確認し、復習しておくこと。          事前事後学習は3時間程度が望ましい。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>プリントを配布する。</p>									
留意 点										

科目名	基礎演習 I		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50004		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	奥野 武志			授業 形態	演習	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】          借り物でない自分の言葉で語るとはどのようなことか。借り物でない自分の言葉で語ることを追及したテキストを味読しながら、疑問について議論し気づきを言語化する作業をくり返すことによって大学での学びを基礎をつくることを目指す。          【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】          ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1) 借り物でない自分の言葉で語るとはどのようなことか理解する。          2) 他人の考え（研究成果）と自分のオリジナルな考えをきちんと分けて示すことができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			・本授業の目的・概要について説明				ディスカッション		
第2回	I 教育とは何か (1)			・ある少年の事件から 傷ついた部分に根ざす能力				ディスカッション		
第3回	I 教育とは何か (2)			・まちがいの手本としての教師 家庭と社会での教育				ディスカッション		
第4回	I 教育とは何か (3)			・進歩について 「まるごと」と「全体」				ディスカッション		
第5回	II 痛みによる定義 (1)			・生き方と死に方 悪の自覚				ディスカッション		
第6回	II 痛みによる定義 (2)			・空想の世界 鬱病と自己教育				ディスカッション		
第7回	II 痛みによる定義 (3)			・自分らしさをつくり、守る 戦争のあそび				ディスカッション		
第8回	III 教育と反教育 (1)			・アメリカで受けた教育 『思想の科学』の人たち				ディスカッション		
第9回	III 教育と反教育 (2)			・サークルという場 まなびほぐす				ディスカッション		
第10回	IV 自己教育の計画 (1)			・親問題をすてない 親問題と子問題				ディスカッション		
第11回	IV 自己教育の計画 (2)			・教育を学校の外にひろげる もうろくと自己表現				ディスカッション		
第12回	IV 自己教育の計画 (3)			・より広い存在へ 国家への服従と不服従				ディスカッション		
第13回	IV 自己教育の計画 (4)			・死と生 主権国家のほころび				ディスカッション		
第14回	IV 自己教育の計画 (5)			・子どもは自分の父				ディスカッション		
第15回	まとめ			・授業全体の総括				ディスカッション		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。          ・平常点：100% 報告の充実度・ディスカッションへの参加度を評価する。</p>									
課題 等	<p>・テキストを読み進めていく上で浮かぶ疑問を積極的に出し合い、その場で議論する。          ・振り返りはオンライン授業アプリを通じて提出する。</p>									
事前事後 学修	<p>・事前学修：テキストの分からない言葉を調べておく。          ・事後学修：授業を受けて浮かんだ疑問について調べる。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>・教科書 鶴見俊輔 『教育再定義への試み』岩波現代文庫、2010年。(ISBN:978-4006031992)</p>									
留意 点	<p>特になし</p>									

科目名	基礎演習 I		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50006		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>大学生生活に必要な日本語表現を、効率的に分かりやすく学び、無理なくスキルアップしていく。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	信ぴょう性の高い情報を分かりやすくまとめる能力の向上									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	自己紹介		具体的に話そう						4月12日	
第2回	大学でのノートの取り方		授業を再現できるノートをとろう						4月19日	
第3回	敬語の基礎		基本ルールをマスターしよう						4月26日	
第4回	演習①		第1回～3回の内容を復習し、トレーニングシートP1～8を提出する。						5月10日	
第5回	確実な連絡メモ		5W1Hでチェックしよう						5月17日	
第6回	メールの書き方		依頼メールの基本を学ぼう						5月24日	
第7回	手紙の書き方		書式とマナーの基本を身につけよう						5月31日	
第8回	説明のコツ		「全体→部分」の順で説明しよう						6月7日	
第9回	演習②		第5回～8回の内容を復習し、トレーニングシートP9～20を提出する。						6月14日	
第10回	大学生の調べ方1		Weblio、辞典、図鑑、Wikipediaを使用し、情報の信ぴょう性を確かめる。						6月21日・ICT活用図書館集合	
第11回	大学生の調べ方2		政府統計の総合窓口						6月28日・ICT活用図書館集合	
第12回	演習③		第11回目で観察した表や図から分かったことを端的にまとめ発表する。						7月5日	
第13回	大学生の調べ方4		キーワードを決め、WebcatPlus、CiNiiを使用し、必要な資料は何か調べる。						7月12日・ICT活用図書館集合	
第14回	大学生の調べ方5		資料調査依頼表を書いて、必要な書籍を手に入れる。						7月19日図書館集合	
第15回	演習④		第10回～14回の内容を復習し、トレーニングシートP21～24を提出する。						7月26日	
評価方法及び評価基準	演習①～④、各回25点満点で評価します。欠席1回につき、5点減点いたします。									
課題等	演習時に課題を設定していますので、それらの課題を全て提出願います。									
事前事後学修	授業前後に2時間程度の予習・復習が必要です。									
教材教科書参考書	橋本修ほか(2021)『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』三省堂 ISBN 978-4-385-36325-7									
留意点	教科書は全員必ず購入してください。よろしく願います。									

科目名	基礎演習Ⅱ(2限目)		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50011		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 「論理的な思考法 (<i>logical thinking</i>)」を身に付けて、大学4年間に於ける学修の基礎力を養う。これは同時に将来の入社試験、あるいは公務員試験(判断推理分野)対策としても役立つはずである。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>前期の学修内容を踏まえて、主に「演繹」についての理解を深める。また、「SPI(非言語分野)」の問題も解けるように訓練する。そして最後に、自分でテーマを設定し小論文作成の練習を行い、これに基づいてプレゼンテーションも行う。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		前期学修項目の復習							
第2回	価値評価		価値評価のパターン						ディスカッション	
第3回	価値評価の論証構造		構造図をつくる						ディスカッション	
第4回	否定		否定の概念を正しく理解する						ディスカッション	
第5回	連言文と選言文		左記についてのド・モルガンの法則を理解する						ディスカッション	
第6回	全称文と存在文		左記についてのド・モルガンの法則を理解する						ディスカッション	
第7回	条件構造		様々な文章から条件構造を読み取る						ディスカッション	
第8回	条件連鎖		条件連鎖をつくる練習を行う						ディスカッション	
第9回	存在文		「推論の技術」として存在文の扱いを学ぶ						ディスカッション	
第10回	消去法		「推論の技術」として消去法を学ぶ						ディスカッション	
第11回	背理法		「推論の技術」として背理法を学ぶ						ディスカッション	
第12回	立論、異論、批判		左記3概念を理解する						ディスカッション	
第13回	小論文を書く		各自の主題設定で小論文を書く						ディスカッション	
第14回	小論文の組み立て、推敲		組み立て方と推敲の仕方について						ディスカッション	
第15回	まとめ		全体のまとめ							
評価方法及び評価基準	<p>各種課題(50%)と期末試験(50%)。期末試験(ド・モルガンの法則、演繹のパターン等について)の評価は解答の正否によって行う。</p>									
課題等	<p>授業は各自の「作業」が中心となる。提出された課題は翌週に返却。</p>									
事前事後学修	<p>毎週課題が出される。要する時間は3時間程度。</p>									
教材教科書参考書	<p>『新版 論理トレーニング』(野矢茂樹、産業図書、本体2200円、ISBN978-4-7828-0211-3)</p>									
留意点	<p>一回でも欠席すると理解困難になる。</p>									

科目名	基礎演習Ⅱ(3限目)		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50012		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 例えば、自分でテーマを設定し小論文を作成、これに基づいてプレゼンテーションを行う等、前期学修を踏まえて、各分野の能力をトータルに高める。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	日本語、基礎演算、時事・一般常識の分野について、「技能・知識」を一層獲得し、「思考力・表現力」をより高める。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		授業の進め方							
第2回	日本語能力レッスン		テーマを設定し、小論文を作成する						課題解決型学修	
第3回	日本語能力レッスン②		テーマを設定し、プレゼンテーションする						課題解決型学修	
第4回	日本語能力レッスン③		テーマを設定し、グループディスカッションを行う						課題解決型学修	
第5回	日本語能力レッスン④		論説文を平易な言葉で解説する						課題解決型学修	
第6回	日本語能力レッスン⑤		論説文を平易な言葉で解説する②						課題解決型学修	
第7回	基礎演算レッスン		公務員試験レベルの計算問題を解く						課題解決型学修	
第8回	基礎演算レッスン②		公務員試験レベルの計算問題を解く②						課題解決型学修	
第9回	基礎演算レッスン③		公務員試験レベルの計算問題を解く③						課題解決型学修	
第10回	基礎演算レッスン④		公務員試験レベルの計算問題を解く④						課題解決型学修	
第11回	基礎演算レッスン⑤		公務員試験レベルの計算問題を解く⑤						課題解決型学修	
第12回	時事・一般常識レッスン		公務員試験にチャレンジ						課題解決型学修	
第13回	時事・一般常識レッスン②		公務員試験にチャレンジ②						課題解決型学修	
第14回	時事・一般常識レッスン③		公務員試験にチャレンジ③						課題解決型学修	
第15回	まとめ		全体のまとめ							
評価方法及び評価基準	各種課題（50％）と期末試験（50％）。期末試験の評価は、試験解答の正否によって行う。									
課題等	自宅等での「ハードな作業」、active learningが中心となる授業。毎週一定量の課題が出される。									
事前事後学修	3時間程度の準備が必要。									
教材教科書参考書	『一冊で突破！SPI3&テストセンター2024年入社用』（成美堂出版編集部、1320円、ISBN978-4-415-23532-5）									
留意点										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50013		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	坂井 任			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>レポートには大きく分けて「報告型」と「論証型」がある。この授業では、「報告型」のレポートを例に、レポートの書き方を身につけ、授業のレポートや卒論等に活かす。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>レポートがきちんと書けるようにする。特に、レポートの構成や引用の仕方などを正しく身につける。また、文献・資料の収集の仕方も学ぶ。</p> <p>レポートの作成を通じて、情報リテラシーを身につける(インターネット等による情報収集・文献検索、パソコンによるレポート作成など)。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	レポートとは		レポートの種類							
第2回	テーマの選び方		レポートのテーマを選ぶポイント							
第3回	テーマを考える		レポートのテーマの候補を考える							
第4回	テーマに関する下調べ		テーマ候補に関する言葉調べ・キーワード調べ						LL教室	
第5回	テーマに関する文献検索		テーマ候補に関する文献を調べる						LL教室	
第6回	テーマの決定		レポートのテーマを決定する						LL教室	
第7回	アウトラインをつくる		レポートの概要構成を考える						LL教室	
第8回	引用と参考文献		文献引用に関する注意・参考文献リストの作り方						LL教室	
第9回	レポート下書き 1		レポートの書き方に関する注意① レポートの下書き①						LL教室	
第10回	レポート下書き 2		レポートの書き方に関する注意② レポートの下書き②						LL教室	
第11回	レポート下書き 3		レポートの書き方に関する注意③ レポートの下書き③						LL教室	
第12回	パソコンによるレポート作成 1		パソコンでレポートを作成する際の注意 レポート作成作業①						LL教室 USBメモリー用意	
第13回	パソコンによるレポート作成 2		レポート作成作業②						LL教室 USBメモリー用意	
第14回	パソコンによるレポート作成 3		レポート作成作業③						LL教室 USBメモリー用意	
第15回	パソコンによるレポート作成 4		レポート作成作業④						LL教室 USBメモリー用意	
評価方法及び評価基準	<p>授業への参加度(40%)、課題への取り組み・提出物(40%)、レポート(20%)</p> <p>毎回取り組んだ課題を提出し、内容と授業への取り組みを総合して各回の平常点とする。完成したレポートと合わせ評価する。レポートは、レポートの構成上・記述上のルールに従って論理的にかかっているかを評価する。レポートを提出しないと単位は修得できない。</p> <p>試験なし。</p>									
課題等	<p>毎回授業内で課題が出る。コメントを入れて次回に返却する。</p> <p>レポートは添削して返却する。</p>									
事前事後学修	<p>授業内で十分に調べられなかったことは、図書館・インターネット等を利用して調査しておくこと。</p> <p>返却された課題のコメントをもとに、レポートを改善すること。事前事後学習は3時間程度が望ましい。</p>									
教材教科書参考書	<p>小笠原喜康『講談社現代新書 最新版大学生のためのレポート・論文術』(本体800円+税)</p> <p>ISBN 9784065135020</p>									
留意点	<p>上記教科書を購入すること。</p>									

科目名	基礎演習Ⅱ		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50014		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	奥野 武志			授業 形態	演習	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 借り物でない自分の言葉で語るとはどうか。借り物でない自分の言葉で語ること追求したテキストを味読しながら、疑問について議論し気づきを言語化する作業をくり返すことによって大学での学びを基礎をつくることを目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1) 借り物でない自分の言葉で語るとはどうかを理解する。 2) 他人の考え（研究成果）と自分のオリジナルな考えをきちんと分けて示すことができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		・本授業の目的・概要について説明						ディスカッション	
第2回	生活の常識		一、生活の常識						ディスカッション	
第3回	生活の哲学		二、生活の哲学						ディスカッション	
第4回	文化とは何か		三、文化とは何か						ディスカッション	
第5回	言葉の文化について		四、言葉の文化について						ディスカッション	
第6回	衣食住の文化		五、衣食住の文化						ディスカッション	
第7回	生活の科学と哲学		六、生活の科学と哲学						ディスカッション	
第8回	文化的民主主義		七、文化的民主主義						ディスカッション	
第9回	生活と芸術		八、生活と芸術						ディスカッション	
第10回	生活の倫理		九、生活の倫理						ディスカッション	
第11回	娯楽文化		十、娯楽文化						ディスカッション	
第12回	娯楽の健全性		十一、娯楽の健全性						ディスカッション	
第13回	生活の教育		十二、生活の教育						ディスカッション	
第14回	生活の宗教		十三、生活の宗教						ディスカッション	
第15回	まとめ		・授業全体の総括						ディスカッション	
評価 方法 及び 評価 基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・平常点：100% 報告の充実度・ディスカッションへの参加度を評価する。</p>									
課題 等	<p>・テキストを読み進めていく上で浮かぶ疑問を積極的に出し合い、その場で議論する。 ・振り返りはオンライン授業アプリを通じて提出する。</p>									
事前 事後 学修	<p>・事前学修：テキストの分からない言葉を調べておく。 ・事後学修：授業を受けて浮かんだ疑問について調べる。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>・教科書 長谷川如是閑 『私の常識哲学』講談社学術文庫、1987年。(ISBN:978-4061587977)</p>									
留意 点	<p>特になし</p>									

科目名	基礎演習Ⅱ		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50016		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>大学生生活に必要な日本語表現を、効率的に分かりやすく学び、無理なくスキルアップしていく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	信ぴょう性の高い情報を分かりやすくまとめる能力の向上									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	資料の読みとり		表・図・グラフから情報を抽出しよう						9月27日・ICT活用	
第2回	アンケートのとり方		アンケート用紙の3大要素をおさえよう						10月4日	
第3回	効果的なプレゼンテーション		レジュメ・視覚資料を作成しよう						10月11日	
第4回	演習⑤		第1回～3回の内容を復習し、トレーニングシートP25～36を提出する。						10月18日	
第5回	演習⑥		第1回～3回の内容を復習し、1つの図表を用いて発表する。						10月25日	
第6回	堅実なレポートの書き方1		具体的な手順を学ぼう						11月1日	
第7回	堅実なレポートの書き方2		体裁を身につけよう						11月8日	
第8回	卒業論文に向けて		研究計画を立てよう						11月15日	
第9回	演習⑦		第6回～8回の内容を復習し、トレーニングシートP37～48を提出する。						11月22日	
第10回	履歴書の作成		しっかりとした履歴書を書こう						11月29日	
第11回	面接の受け方		質問内容を予想して準備しよう						12月6日	
第12回	演習⑧		第10回・11回を復習し、トレーニングシートP49～52を提出する。						12月13日	
第13回	小論文の書き方		予め型を決めておこう						12月20日	
第14回	エッセイ・ブログ		趣味的な文章の書き方を学ぼう						1月17日	
第15回	演習⑨		第13回・14回を復習し、トレーニングシートP53～56を提出する。						1月24日	
評価方法及び評価基準	演習⑤～⑨、各回20点満点で評価します。欠席1回につき、5点減点いたします。									
課題等	演習時に課題を設定していますので、それらの課題を全て提出願います。									
事前事後学修	授業前後に2時間程度の予習・復習が必要です。									
教材教科書参考書	橋本修ほか(2021)『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』三省堂 ISBN 978-4-385-36325-7									
留意点	教科書は全員必ず購入してください。よろしく願います。									